

# 視察・政務調査報告

歩む会 参加議員 鈴木 一 塩谷寿雄 牧野 晶

阿部久夫 勝又貞夫

期 間 … 1月29日 ～ 1月31日

## ◆1月29日 大分県別府市 別府市役所にて

### ●調査内容

#### 《湯～園地＝遊べる温泉都市》の取り組みについて

資料にもとずき説明があった後、質疑応答を行なった。

【税金は一切使わない！】…というスローガンのもとに、市内の公園（湯～園地）で遊ぶ人々を撮影し、その映像を YouTube で公開し、再生回数が100万回を達成した場合、実際に別府市で《湯～園地計画》を実施するとの公約を発表したところ、わずか三日間で100万回の再生を達成した。この型破りな企画は、国内で注目されたほか、世界50か国以上のニュースにも取り上げられ、その広告宣伝効果は、世界中で約100億円以上とも言われている。

この企画を実際に実施するに当たっては、クラウドファン

ディングを活用し、寄付金なども含め、最終的には約9000万円の収入を獲得できたとのこと。注目すべきは、この企画を実施するにあたり、1200人ものボランティアの人々の参加があったことである。メディアに参加してもらい、その情報発信力を効果的に利用できたのも大きなポイントであった。物事は【やり方しだい】という注目すべき事例であろう。残念なのは、このイベントを平成29年7月下旬のわずか3日間の実施で終わらせたことで、今後は民間主導で、工夫・改善しながら継続したいとのこと。

詳しくは資料をご覧ください。

### **資料①参照**

## **◆1月30日 別府市役所にて**

### **●調査内容**

#### **共生社会形成事業について**

資料にもとづき説明された後、質疑応答を行なった。

別府市では、共生社会実現に向けて【ともに生きる条例】を平成26年4月1日から施行した。これは全国の自治体の中でも先進的な取り組みで、市町村レベルではさいたま市、

八王子市に次ぎ3番目に制定された。障害のある人もない人も、ともに安心して安全に暮らせる共生社会を目指すものである。この条例は先進的取り組みであるにもかかわらず、意外なことに、市民の認知度が28%と低く、認知度の引き上げと、市民の共生意識の浸透が課題となっている。この条例施行に至る経過・現状・内容・問題点等については、資料に詳しく書かれています。詳しくは資料をご覧ください。

## **資料②参照**

### **〇別府市の感想**

別府市については、観光と国際的大学も注目すべき要素で、今回の政務調査でこの調査ができず、残念でした。別府は日本一の温泉地とも言われ、温泉の湧水量は世界一とのこと。住民自らが地域の魅力を見つめなおして、温泉を中心に、地域を元気にする取り組みを草の根的に実施した効果もあり、直近の8年間で外国人観光客が約4倍に伸びたとのこと。これは、立命館アジア太平洋大学による効果が大きいものと考えられる。外国からの留学生が、街づくりや地域の国際化の一端を担っている。ここでは留学生による母国への発信や

PR、観光地での通訳やガイドのほか、外人目線での提言など幅広い活動が行なわれている。わが市にも国際大学があることから、参考として学ぶべきところは多いと思う。

別府市外ではあるが、5キロほどの距離の所に高崎山があり、ここを訪問して、サルによる農地への被害防止について、現地での口頭による調査を行なった。この高崎山については予定外調査でした。

## ◆1月31日 杵築市 杵築市役所にて

### ●調査内容

#### 地域ケア会議(多世代型・自立支援型)の運営・取り組みについて

資料にもとづいて説明があった後、質疑応答を行なった。

杵築市でも急激な人口減少時代を迎え、少子高齢化の進展に伴い、空き家・空き地や耕作放棄地が増加し、地域コミュニティが維持できない集落が出てきている。

今後は高齢者の増加が全国的な傾向となるが、なぜか杵築市では、高齢者人口は横ばいか穏やかに減少すると予測して

いる。とはいえ85才以上の人口は今後も増加するわけで、その健康寿命の延伸が重要課題であることには違いない。資料にある通り、【全世代対象の地域ケア会議】や【農・福連携による地域共生社会】等、この市の先進性が注目される。市内13地区には、それぞれの地域差があり、課題も様々であることから、地域ごとに十分検討を加え、保健・福祉・医療の地域づくり計画を作成している。問題は人材の確保と、福祉全般に対する地域住民全体の意識高揚であるとのこと。

この杵築市でも厳しい《財政難》であり、人件費が財政を圧迫していることには変わりなく、結局は職員数を減らさざるを得ないとのこと。どうしたら福祉面での質を落とさずに人件費を削減してゆけるかが、今後の大きな課題となるに違いない。詳しくは資料をご覧ください。

### **資料③参照**

#### **□杵築市の感想**

九州の小京都とも言われ、城や古い町並みなどがあり、【坂道と着物が似合う城下町】として有名。今回の政務調査を終えた後、議会他行政システム全般にタブレットの使用が浸透

しているとの話を聞くことができた。議会の資料は全てタブレット端末の中にあり、情報伝達において何かと便利とのこと。議会事務局の仕事が楽になり、なぜか議会での質問も減ったとの話を聞いて、意外に思った。杵築市では、このタブレット使用についての政務調査を受けることが多く、他の自治体に出張して説明会等を行なうこともあるとのこと。

#### □追記・・・

今回の政務調査は、訪問先では、ほとんど机上での説明であった。内容にもよるが、我々が先方を訪問するのではなく、相手側から当市に来てもらって説明を聞くというやり方も、今後考えてもいいのではないか。相手側に交通費・宿泊料・講師料を払っても、比較にならないほど安い費用で済むと思う。我々の政務調査も一日で済むし、希望があれば他の議員や職員も参加でき、更なる情報共有ができることになる。何よりも《時間経済》からして、そのやり方を検討するべきではないか??・・・と思う。

記者 勝又貞夫